

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム
タイトル	患者の療養場所の選択:意思決定の支援について
日時	平成25年3月30日 15:10~17:10
会場	メインホール
演者	北里大学病院 患者支援センター部・小野沢 滋先生、オレンジの会・松本 陽子先生、ファーマダイワ介護サービスセンター・益永 佳予子先生、神奈川県立がんセンター・清水 奈緒美先生、日本社会医療福祉協会/国際医療福祉大学・佐原 まち子先生
企画趣旨	<p>私たちは、自分が家で過ごしたいと思った時に、そのとおりにできるのだろうか。</p> <p>例えば悪性腫瘍になり、もう治療がないと医師が手詰まりになった時、患者にそのことは伝わっているのか。そして、療養場所の選択の機会が与えられるのか。正確な情報は伝達されているのか。</p> <p>脳血管障害となった時、自分が住み慣れた家で過ごしたいと希望した時にそれを叶えてくれる手立てはあるのだろうか。その決定は誰がするのだろうか。</p> <p>自宅療養中に具合が悪くなり、入院して治療したいと思った時、果たして、自分が望む場所で治療が受けられるのだろうか。</p> <p>医療の、様々な場面で療養場所の選択が問題となる。しかし、患者自身の生き方をきちんと反映できる形でその選択が行われているか、と言われると、必ずしもそうではないのが現状であろう。だとすれば、私たち医療者がどのような体制を組めば、少しでも多くの患者が自分の望みに近い療養場所で人生を過ごすことができるのだろうか。自宅で最後を過ごしたいと考えている人が半数以上と言われているが、そうなっていない現実を考えると、受け入れ側の体制だけではなく、送り出し側の体制やそこでの意思決定がどうなされているのかを考えざるを得ない。</p> <p>今回のシンポジウムでは、送り出し側に当たる急性期病院で退院支援を行っているソーシャルワーカー、退院支援看護師、受け入れ側でもあり、また、場合によっては送り出し側にもなる、在宅医、ケアマネージャー、更には、ピアサポートを行う患者会の方にもご登壇いただき、急性期病院からの悪性腫瘍の療養場所選択の支援を中心に、良性疾患の療養場所決定の支援、低所得独居虚弱高齢者の療養場所選択の支援などについて、現状と問題点、そして、今後私達がなすべきことを議論していきたい。</p>